

公立高等学校配置計画

(令和7年度(2025年度)～9年度(2027年度))

- ・令和7年度(2025年度)高校配置計画変更
- ・令和8年度(2026年度)高校配置計画変更
- ・令和9年度(2027年度)高校配置計画

令和6年(2024年)9月

北海道教育委員会

目 次

I	公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の概要	2
5	地域連携校等の再編整備の留保	3
6	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	9
III	公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））学区別個表	
	空知南学区	11
	空知北学区	12
	石狩学区	13
	後志学区	15
	胆振西学区	16
	胆振東学区	17
	日高学区	18
	渡島学区	19
	檜山学区	20
	上川南学区	21
	上川北学区	22
	留萌学区	23
	宗谷学区	24
	オホーツク中学区	25
	オホーツク東学区	26
	オホーツク西学区	27
	十勝学区	28
	釧路学区	29
	根室学区	30

I 公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度）） 策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業生数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和7年度（2025年度）及び令和8年度（2026年度）の計画の一部を変更し、令和9年度（2027年度）の配置計画を策定するとともに、令和10年度（2028年度）から令和13年度（2031年度）までの見通しを示すものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和7年（2025年）に4万74人、令和8年（2026年）に3万9,976人、令和9年（2027年）に3万9,157人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、令和5年（2023年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」改定版（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを行う観点から、市町や圏域において複数の高校が設置されている場合、関係市町村の参画を得ながら高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討するなど、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

(1) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(2) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(3) アンビシャススクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャススクールの導入を進める。

(4) 普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 地域連携校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

4 配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の概要

決定済みの令和7年度（2025年度）及び令和8年度（2026年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和9年度（2027年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 令和7年度（2025年度）高校配置計画の変更

全日制課程 ア 学級増

令和6年度（2024年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った16校のうち、芦別高校など10校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増を行う。
また、広尾高校については、町内の中卒者数の状況などを勘案し、1学級増を行う。

イ 再編統合・普通科新学科の設置

岩見沢東高校及び岩見沢西高校の再編統合により設置する新設校について、検討中としていた普通科新学科の名称を文理探究科とする。

ウ 地域連携校の導入

教育環境の維持向上を図るため、新たに森高校を地域連携校とする。

(3) 令和8年度（2026年度）高校配置計画の変更

全日制課程 ア 学級減・学科転換

1学級減とする函館水産高校については、水産食品科及び品質管理流通科を食品創造科に学科転換する。

定時制課程・全日制課程

ア 募集停止・新設

設置者（二セコ町）の決定により、生徒の在籍状況や進路希望などを勘案し、二セコ高校（町立・定時制・農業科）を募集停止し、新設校（町立・全日制・総合学科）を設置する（農業科から総合学科への学科転換を変更）。

なお、新設校は総合学科2学級、1学級当たりの定員を35人とし、二セコ高校の校舎を使用する。

(4) 令和9年度（2027年度）高校配置計画

全日制課程 ア 学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、北見商業高校、釧路江南高校の2校で各1学級の減を行う。

イ 再編整備

南茅部高校（地域連携校）について、再編整備を留保していたが、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続10人未満となったため、募集停止とする。

ウ 再編統合・単位制の導入

設置者（札幌市）の決定により、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、市立札幌藻岩高校と市立札幌啓北商業高校を再編統合し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は8学級、校舎は市立札幌藻岩高校の敷地に新設し、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入する。

5 地域連携校等の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携校及び全日制課程で農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続で20人未満となった場合であっても、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備を留保することとしており、こうした状況となっている苫前商業高校について、再編整備を留保する。

6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立高校や私立高校の設置・廃止により、生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 学級減と併せた学科転換、地域連携校の導入等を実施する場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

II 公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の内容

1 中学校卒業生数

令和6年(2024年)(実績)	40,951人	(対前年比 227人減少)
令和7年(2025年)(推計)	40,074人	(対前年比 877人減少)
令和8年(2026年)(推計)	39,976人	(対前年比 98人減少)
令和9年(2027年)(推計)	39,157人	(対前年比 819人減少)

2 欠員の状況

(令和6年(2024年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,880人 (+136人)	1,082人 (-104人)	1,305人 (+333人)	6,267人 (+365人)

※（ ）は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
令和6年度	定 員 (人)	29,090	2,200	240	720	11,161	43,411	
	割 合 (%)	71.0	5.4	0.6	1.8	27.3	106.0	
公立高等学校配置計画	令和7年度	学級増(人)	480	0	0	0	0	480
		学級減(人)	-84	0	0	0	0	-84
		新設(人)	440	40	0	0	0	480
	令和8年度	募集停止(人)	-560	-40	0	0	0	-600
		差引増減(人)	276	0	0	0	0	276
		定 員 (人)	29,366	2,200	240	720	11,161	43,687
令和9年度	割 合 (%)	73.3	5.5	0.6	1.8	27.9	109.0	
	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	-40	0	0	0	0	-40	
	新設(人)	70	0	0	0	0	70	
	募集停止(人)	-40	-40	0	0	0	-80	
	差引増減(人)	-10	-40	0	0	0	-50	
令和9年度	定 員 (人)	29,356	2,160	240	720	11,161	43,637	
	割 合 (%)	73.4	5.4	0.6	1.8	27.9	109.2	
	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	-80	0	0	0	0	-80	
	新設(人)	320	0	0	0	0	320	
	募集停止(人)	-520	0	0	0	0	-520	
令和9年度	差引増減(人)	-280	0	0	0	0	-280	
	定 員 (人)	29,076	2,160	240	720	11,161	43,357	
	割 合 (%)	74.3	5.5	0.6	1.8	28.5	110.7	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和7年度（2025年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、募集定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、募集定員を35人としている。

※4 大空高校（大空町立）は、令和7年度（2025年度）から募集定員を36人とする。

※5 新設校（二セコ町立、令和8年度（2026年度）開校）は、募集定員を70人（1学級当たり35人）とする。

4 配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））の学校別内訳

(1) 令和6年度（2024年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	R 6 (2024) 募集学級数	R 6 (2024) 開設学級数	R 7 (2025) 募集学級数
空 知 南	道	岩見沢東	全	普 通	5	4	再編統合 (統合後の募集学級数は6)
	道	岩見沢西	全	普 通	3	2	
空 知 北	道	芦 別	全	普 通	2	1	2
	道	深川西	全	普 通	3	2	3
石 狩	道	札幌西陵	全	普 通	7	6	6
	道	札幌あすかぜ	全	普 通	3	2	2
後 志	道	倶知安	全	普 通	4	3	4
胆 振 西	道	伊達開来	全	普 通	6	5	5
日 高	道	静 内	全	普 通	5	4	5
上 川 北	道	士別翔雲	全	普 通	3	2	3
留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	4
オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	2	1	2
十 勝	道	清 水	全	総 合	3	2	3
	道	池 田	全	総 合	2	1	1
根 室	道	別 海	全	普 通	3	2	3
	道	中 標 津	全	普 通	4	3	4
計		16校					

(2) 学級増減

① 学級増（網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 7 (2025)	空 知 南	市	岩見沢緑陵	全	普 通	3	4	+1	5学級→6学級
	空 知 北	道	芦 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
		道	深川西	全	普 通	2	3	+1	2学級→3学級
	後 志	道	倶知安	全	普 通	3	4	+1	3学級→4学級
	日 高	道	静 内	全	普 通	4	5	+1	4学級→5学級
	上 川 北	道	士別翔雲	全	普 通	2	3	+1	3学級→4学級
	留 萌	道	留 萌	全	普 通	3	4	+1	5学級→6学級
	オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	十 勝	道	清 水	全	総 合	2	3	+1	2学級→3学級
		道	広 尾	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
根 室	道	別 海	全	普 通	2	3	+1	3学級→4学級	
	道	中 標 津	全	普 通	3	4	+1	4学級→5学級	
(小計)		12校					+12		
R 8 (2026)	-								
R 9 (2027)	-								
計		12校					+12 (+480)		

② 学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 7 (2025)	空 知 北 胆 振 西	道	深 川 東	全	総合ビジネス	1	0	-1	2学級→1学級
			室 蘭 工 業	全	工業(大学科)	4	3	-1	4学級→3学級
	(小計)		2校					-2	
R 8 (2026)	渡 島	道	函 館 水 産	全	水産(大学科)	4	3	-1	4学級→3学級
R 9 (2027)	才 木 ー ツ 中 釧 路	道	北 見 商 業	全	商業(大学科)	3	2	-1	3学級→2学級
			釧 路 江 南	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	(小計)		2校					-2	
計		5校						-5 (-200)	

- ・ 室蘭工業、函館水産の小学科については、「(5) 学科転換」を参照。
- ・ 北見商業の減ずる小学科については、検討中。

(3) 再編整備

① 再編統合 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 7 (2025)	空 知 南	道	岩 見 沢 東	全	普 通	4	0	-4	4学級→0学級
				定	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
		道	岩 見 沢 西	全	普 通	2	0	-2	2学級→0学級
		道	新 設 校	全	文 理 探 究	0	2	+2	6学級
				定	普 通	0	4	+4	岩見沢西高校校舎を使用
	道	富 良 野	全	普 通	0	1	+1	1学級	
	上 川 南	道	富 良 野 緑 峰	全	総合ビジネス	1	0	-1	3学級→0学級
				定	電 気 シ ス テ ム	1	0	-1	
				定	園 芸 科 学	1	0	-1	
		道	新 設 校	全	普 通	0	3	+3	5学級
定				電 気 情 報 シ ス テ ム	0	1	+1	富良野緑峰高校校舎を使用	
道	新 設 校	全	園 芸 観 光 デ ザ イ ン	0	1	+1			
(小計)		再編に伴う募集停止4校、新設2校							
R 8 (2026)	-								
R 9 (2027)	石 狩	市	市立札幌藻岩	全	普 通	6	0	-6	6学級→0学級
		市	市立札幌啓北商業	全	未 来 商 学	6	0	-6	6学級→0学級
		市	新 設 校	全	(検 討 中)	0	8	+8	8学級 市立札幌藻岩高校敷地に校舎を新築
計		再編に伴う募集停止6校、新設3校						-6 (-240)	

② 募集停止 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 7 (2025)	胆 振 東	道	穂 別	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
R 8 (2026)	空 知 北	道	奈 井 江 商 業	全	情 報 処 理	1	0	-1	1学級→0学級
	後 志 町	定	二 七 二	定	緑 地 観 光	1	0	-1	1学級→0学級
R 9 (2027)	渡 島	道	南 茅 部	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
計		4校						-4 (-160)	

(4) 新設（網掛け = 決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 7 (2025)									
R 8 (2026)	後 志 町		新 設 校	全 総 合		0	2	+ 2	2 学級 二七二高校校舎を使用
R 9 (2027)									
計			1 校					+ 2 (+ 7 0)	

(5) 学科転換（網掛け = 決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 7 (2025)	胆 振 西 道		室 蘭 工 業	全	建 築	1	0	- 1	(再掲) 1 学年総学級数 4 学級→3 学級
					環 境 土 木	1	0	- 1	
					建 設	0	1	+ 1	
R 8 (2026)	渡 島 道		函 館 水 産	全	水 産 食 品	1	0	- 1	(再掲) 1 学年総学級数 4 学級→3 学級
					品 質 管 理 流 通	1	0	- 1	
					食 品 創 造	0	1	+ 1	
R 9 (2027)									

(6) 単位制の導入（網掛け = 決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 7 (2025)	空 知 南 道		新 設 校	全	文 理 探 究	2	(再掲) 岩見沢東・岩見沢西の再編
					普 通	4	
	上 川 南 道		新 設 校	全	普 通	3	(再掲) 富良野・富良野緑峰の再編
					電 気 情 報 シ ス テ ム	1	
					園 芸 観 光 デ ザ イ ン	1	
	留 萌 道		留 萌	全	情 報 ビ ジ ネ ス	1	
電 気 ・ 建 築					1		
R 8 (2026)							
R 9 (2027)	石 狩 市		新 設 校	全	(検 討 中)	8	(再掲) 市立札幌藻岩・市立札幌啓北商業の再編

(7) 普通科フィールド制の転換

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	摘 要
R 7 (2025)	石 狩	道	札幌あすかぜ	全	2	普通科に転換
		道	札幌平岡	全	6	普通科に転換
R 8 (2026)						
R 9 (2027)						

(8) 地域連携校の導入（網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 7 (2025)	渡 島 道		森	全	総 合	函 館 工 業	
R 8 (2026)	—						
R 9 (2027)	—						

5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和6年(2024年)推計）

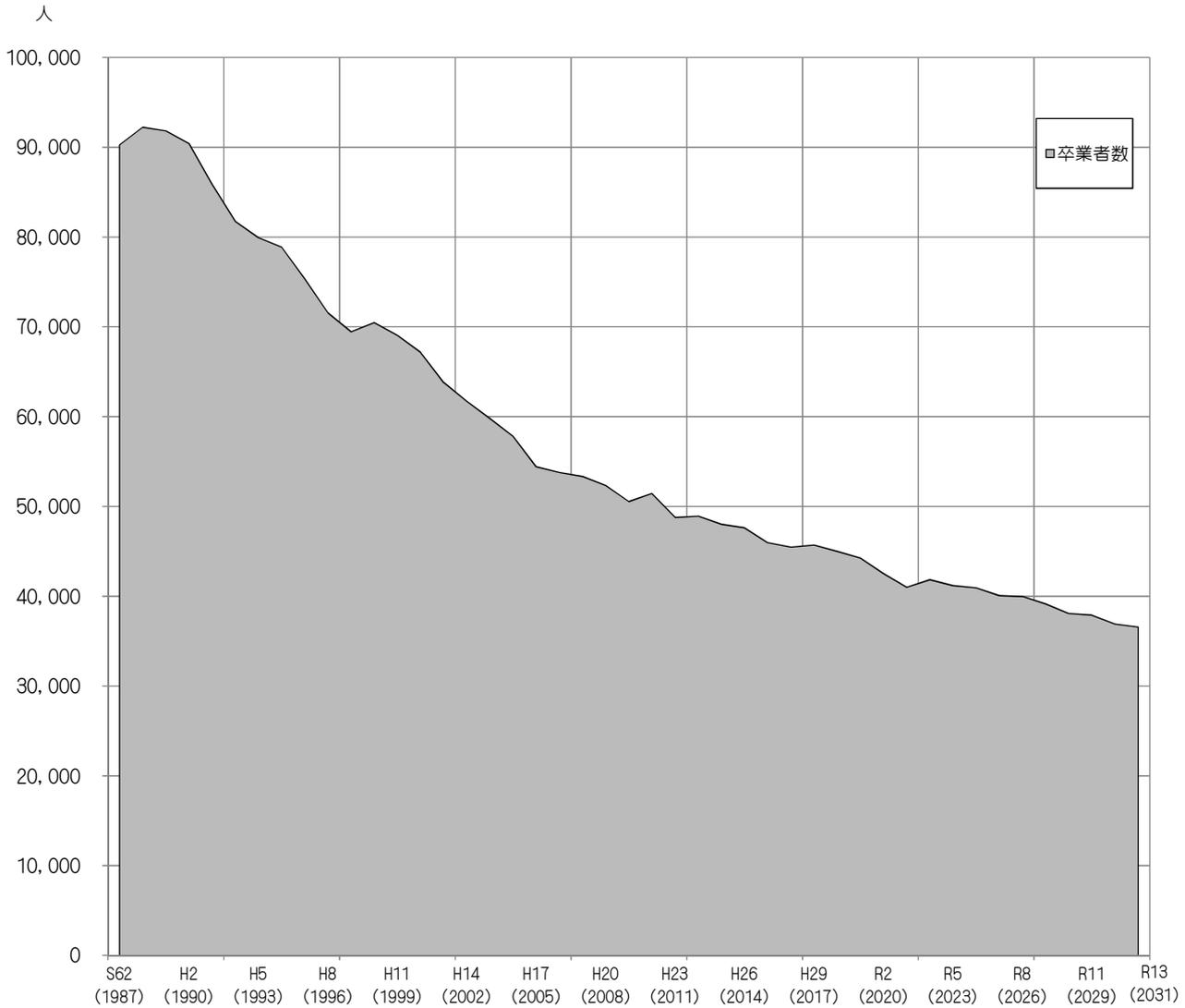
	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	令和11年 (2029年)	令和12年 (2030年)	令和13年 (2031年)
空知南	994	1,052 +58	1,030 ▲22	1,005 ▲25	929 ▲76	980 +51	911 ▲69	845 ▲66
空知北	827	820 ▲7	819 ▲1	758 ▲61	716 ▲42	731 +15	705 ▲26	679 ▲26
石狩	19,495	19,243 ▲252	19,361 +118	18,872 ▲489	18,661 ▲211	18,824 +163	18,803 ▲21	18,845 +42
後志	1,374	1,366 ▲8	1,327 ▲39	1,299 ▲28	1,234 ▲65	1,264 +30	1,138 ▲126	1,136 ▲2
胆振西	1,330	1,227 ▲103	1,187 ▲40	1,203 +16	1,184 ▲19	1,066 ▲118	1,053 ▲13	1,094 +41
胆振東	1,690	1,720 +30	1,672 ▲48	1,631 ▲41	1,628 ▲3	1,603 ▲25	1,527 ▲76	1,481 ▲46
日高	491	473 ▲18	477 +4	438 ▲39	455 +17	387 ▲68	424 +37	386 ▲38
渡島	2,928	2,721 ▲207	2,669 ▲52	2,656 ▲13	2,498 ▲158	2,471 ▲27	2,337 ▲134	2,312 ▲25
檜山	192	207 +15	212 +5	206 ▲6	177 ▲29	186 +9	156 ▲30	145 ▲11
上川南	3,312	3,255 ▲57	3,224 ▲31	3,215 ▲9	3,105 ▲110	3,117 +12	2,957 ▲160	2,925 ▲32
上川北	423	420 ▲3	393 ▲27	396 +3	380 ▲16	350 ▲30	328 ▲22	346 +18
留萌	280	263 ▲17	284 +21	267 ▲17	256 ▲11	240 ▲16	220 ▲20	185 ▲35
宗谷	448	425 ▲23	404 ▲21	391 ▲13	393 +2	380 ▲13	365 ▲15	346 ▲19
オホーツク中	1,180	1,097 ▲83	1,184 +87	1,071 ▲113	1,116 +45	1,047 ▲69	930 ▲117	968 +38
オホーツク東	498	482 ▲16	472 ▲10	479 +7	437 ▲42	434 ▲3	386 ▲48	390 +4
オホーツク西	394	380 ▲14	408 +28	406 ▲2	360 ▲46	366 +6	354 ▲12	314 ▲40
十勝	2,824	2,751 ▲73	2,709 ▲42	2,745 +36	2,614 ▲131	2,526 ▲88	2,468 ▲58	2,368 ▲100
釧路	1,653	1,590 ▲63	1,612 +22	1,525 ▲87	1,407 ▲118	1,397 ▲10	1,371 ▲26	1,311 ▲60
根室	618	582 ▲36	532 ▲50	594 +62	541 ▲53	525 ▲16	461 ▲64	494 +33
合計	40,951	40,074 ▲877	39,976 ▲98	39,157 ▲819	38,091 ▲1,066	37,894 ▲197	36,894 ▲1,000	36,570 ▲324

※中学校卒業生数は、令和6年（2024年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和6年（2024年）は実数、令和7年（2025年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和13年（2031年））

(注) 1 昭和62年（1987年）～令和6年（2024年）は実卒業生数である。
 2 令和7年（2025年）～令和13年（2031年）は学校基本調査（令和6年（2024年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業生数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業生数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	40,983	41,845	41,178	40,951	40,074
増減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,513	+862	-667	-227	-877

年	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
卒業生数	39,976	39,157	38,091	37,894	36,894	36,570
増減	-98	-819	-1,066	-197	-1,000	-324

Ⅲ 公立高等学校配置計画（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画												
区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～2031) 年までの増減	令和10～13 (2028～2031) 年までの増減		
学区内中卒者数	994	1,052	1,030	1,005	929	980	911	845	▲ 149	▲ 160		
対前年増減		+ 58	▲ 22	▲ 25	▲ 76	+ 51	▲ 69	▲ 66				
岩見沢市中卒者数	(580)	(582)	(596)	(586)	(527)	(554)	(504)	(484)	▲ 96	▲ 102		
対前年増減		+ 2	+ 14	▲ 10	▲ 59	+ 27	▲ 50	▲ 20				
美唄市中卒者数	(114)	(124)	(107)	(89)	(96)	(98)	(101)	(75)	▲ 39	▲ 14		
対前年増減		+ 10	▲ 17	▲ 18	+ 7	+ 2	+ 3	▲ 26				
三笠市中卒者数	(45)	(46)	(47)	(32)	(44)	(35)	(40)	(40)	▲ 5	+ 8		
対前年増減		+ 1	+ 1	▲ 15	+ 12	▲ 9	+ 5	± 0				
夕張市中卒者数	(35)	(28)	(24)	(33)	(23)	(23)	(19)	(18)	▲ 17	▲ 15		
対前年増減		▲ 7	▲ 4	+ 9	▲ 10	± 0	▲ 4	▲ 1				
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し			摘要	
岩見沢東	5→4		4	11	普▲4			○4年間で4学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い岩見沢市を中心に、周辺市町を含めた公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、早急に定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助成した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要			R6(2024)入選第2次募集後学級減	
(岩見沢東)	(1)		(1)	(29)	(普▲1)							
単 岩見沢西	3→2		2	15	普▲2							R6(2024)入選第2次募集後学級減
新設校				普+6 単位制導入 普通科新学科設置								月形、夕張の協力校 岩見沢西高校校舎を使用
(新設校)				(普+1)								
岩見沢農業		農 7	7	80								
*岩見沢緑陵	3	商 2	5	21	普+1							
総 美唄尚栄	2		2	29								
美唄聖華		看 2	2	37								
*三 笠		家 1	1	0								
地 月 形	1		1	24								再編整備留保
地 夕 張	1		1	14								
長 沼	2		2	36								
栗 山	2		2	31								
11校	19 →17	12	29	298	普▲6 普+7							

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「普新」は普通科新学科設置校、「フ」はフィールド制、「ア」はアンビシャススクール、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携校。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 令和6年度(2024年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注5 「令和10～13年度(2028～2031年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和13年(2031年)と令和9年(2027年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

注6 新設校(岩見沢市内)の学科は、普通科新学科2学級、普通科4学級を設置する。

注7 ()は定時制課程で計欄に含まない。(岩見沢東及び新設校(岩見沢市内))

空知北学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減			
	学区内中卒者数	827	820	819	758	716	731	705	679	▲ 148	▲ 79		
対前年増減		▲ 7	▲ 1	▲ 61	▲ 42	+ 15	▲ 26	▲ 26					
滝川市中卒者数	(275)	(289)	(283)	(289)	(234)	(249)	(216)	(218)	▲ 57	▲ 71			
対前年増減		+ 14	▲ 6	+ 6	▲ 55	+ 15	▲ 33	+ 2					
砂川市中卒者数	(119)	(108)	(109)	(87)	(97)	(78)	(98)	(85)	▲ 34	▲ 2			
対前年増減		▲ 11	+ 1	▲ 22	+ 10	▲ 19	+ 20	▲ 13					
歌志内市中卒者数	(13)	(11)	(4)	(10)	(7)	(7)	(3)	(7)	▲ 6	▲ 3			
対前年増減		▲ 2	▲ 7	+ 6	▲ 3	± 0	▲ 4	+ 4					
戸別市中卒者数	(64)	(61)	(62)	(52)	(54)	(51)	(50)	(37)	▲ 27	▲ 15			
対前年増減		▲ 3	+ 1	▲ 10	+ 2	▲ 3	▲ 1	▲ 13					
赤平市中卒者数	(49)	(50)	(42)	(50)	(36)	(44)	(35)	(32)	▲ 17	▲ 18			
対前年増減		+ 1	▲ 8	+ 8	▲ 14	+ 8	▲ 9	▲ 3					
深川市中卒者数	(116)	(118)	(120)	(99)	(121)	(118)	(115)	(108)	▲ 8	+ 9			
対前年増減		+ 2	+ 2	▲ 21	+ 22	▲ 3	▲ 3	▲ 7					
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し			摘要		
	普通	職業	計										
単 滝 川	5		5	25				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況などを考慮し、滝川市内における再編整備を含めた公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要					
滝川工業		工 2	2	28									
*滝川西	3	商 3	6	44									
単 砂 川	2		2	30									
奈井江商業		商 1	1	31		商▲1							
新十津川農業		農 1	1	2									
戸 別	2→1		1	14	普+1 (計画変更)								R 6 (2024)入選第2次募集後学級減
深川西	3→2		2	7	普+1 (計画変更)								R 6 (2024)入選第2次募集後学級減
深川東		農 1 商 1	2	54	商▲1								
9校	15 →13	9	22	235	普+2 商▲1	商▲1							

石狩学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～2031) 年までの増減	令和10～13 (2028～2031) 年までの増減
学区内中卒者数	19,495	19,243	19,361	18,872	18,661	18,824	18,803	18,845	▲ 650	▲ 27
対前年増減		▲ 252	+ 118	▲ 489	▲ 211	+ 163	▲ 21	+ 42		
札幌市中卒者数	(15,468)	(15,346)	(15,522)	(15,046)	(14,934)	(15,027)	(15,034)	(15,072)	▲ 396	+ 26
対前年増減		▲ 122	+ 176	▲ 476	▲ 112	+ 93	+ 7	+ 38		
江別市中卒者数	(1,185)	(1,130)	(1,200)	(1,189)	(1,176)	(1,245)	(1,223)	(1,210)	+ 25	+ 21
対前年増減		▲ 55	+ 70	▲ 11	▲ 13	+ 69	▲ 22	▲ 13		
千歳市中卒者数	(928)	(877)	(856)	(881)	(844)	(871)	(842)	(863)	▲ 65	▲ 18
対前年増減		▲ 51	▲ 21	+ 25	▲ 37	+ 27	▲ 29	+ 21		
恵庭市中卒者数	(629)	(651)	(628)	(612)	(594)	(620)	(613)	(623)	▲ 6	+ 11
対前年増減		+ 22	▲ 23	▲ 16	▲ 18	+ 26	▲ 7	+ 10		
北広島市中卒者数	(573)	(618)	(549)	(550)	(526)	(494)	(528)	(455)	▲ 118	▲ 95
対前年増減		+ 45	▲ 69	+ 1	▲ 24	▲ 32	+ 34	▲ 73		
石狩市中卒者数	(577)	(498)	(505)	(480)	(487)	(463)	(461)	(504)	▲ 73	+ 24
対前年増減		▲ 79	+ 7	▲ 25	+ 7	▲ 24	▲ 2	+ 43		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-2				○4年間で公私比率助産後0～1学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、札幌市の整備計画も踏まえた上で、札幌市内の再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○複数の学科を設置している定時制課程について、いずれかの学科で5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となりその後も生徒数の増が見込まれない場合は、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要（札幌工業、札幌琴似工業）		
札幌西	8		8	0						
札幌南	8		8	-2						
札幌北	8		8	-1						
札幌月寒	8		8	0						
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	8		8	0						
単 札幌手稲	8		8	0						
札幌丘珠	7		7	19						
札幌西陵	7→6		6	6					R 6 (2024)入選第2次募集後学級減	
単 札幌白石	7		7	0						
単 札幌東陵	7		7	-1						
札幌南陵	2		2	24						
札幌東豊	3		3	15						
総 札幌厚別	7		7	-2						
札幌真栄	5		5	0						
フ 札幌あすかぜ	3→2		2	2	普通科F・L [※] 制を普通科に転換				R 6 (2024)入選第2次募集後学級減	
札幌稲雲	7		7	13						
フ 札幌平岡	6		6	-1	普通科F・L [※] 制を普通科に転換					
単 札幌英藍	7		7	0						

学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度(2028～2031年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
札幌白陵	2		2	15					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	-1				
江別	5	商 家	1 1	7	17				
ア野幌	3		3	29					
単大麻	7		7	1					
千歳	6	商	2	8	0				
総ア千歳北陽	4		4	37					
単北広島	7		7	0					
北広島西	4		4	13					
石狩南	7		7	0					
当別	1	農 家	1 1	3	39				
恵庭南	7		7	15					
恵庭北	6		6	18					
札幌工業		工	8	8	33				
札幌琴似工業		工	8	8	49				
札幌東商業		商	8	8	-2				
総石狩翔陽	8		8	0					
単*市立札幌旭丘	8		8	-4					
単*市立札幌藻岩	6		6	-3			普▲6		
*市立札幌密北商業		商	6	6	-2		商▲6		
*新設校							+8 単位制導入 (学科検討中)		市立札幌藻岩高校敷地に 校舎を新築
*市立札幌平岸	8		8	-1					
単*市立札幌清田	6		6	0					
中 等	*市立札幌開成	4	4	5					
*市立札幌新川	8		8	-1					
44校	243→ 241	40	281	327			普▲6 商▲6 +8 (学科検討中)		

後志学区高校配置計画

区分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~ 2031)年まで の増減	令和10~13 (2028~ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	1,374	1,366	1,327	1,299	1,234	1,264	1,138	1,136	▲ 238	▲ 163
対前年増減		▲ 8	▲ 39	▲ 28	▲ 65	+ 30	▲ 126	▲ 2		
小樽市中卒者数	(724)	(712)	(679)	(686)	(624)	(628)	(591)	(593)	▲ 131	▲ 93
対前年増減		▲ 12	▲ 33	+ 7	▲ 62	+ 4	▲ 37	+ 2		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10~13年度 (2028~2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	5		5	14				○4年間で公私比率助案後2~3学級に相当する中卒者の減		
単 小樽桜陽	5		5	15				○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、小樽市内における定員調整の検討が必要		
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	16				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
小樽水産		水 4	4	47				○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要		
総 余市紅志	1		1	4						
単 岩 内	2	商 1	3	55				○小樽市内の定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となるなど小規模化していることから、生徒の進路動向を踏まえながら今後の在り方について検討が必要	寿部の協力校	
地 寿 部	1		1	14						
単 倶 知 安	4→3		3	0	普+1 (計画変更)				蘭越の協力校 R6(2024)入選第2次募集後学級減	
地 蘭 越	1		1	30						
倶知安農業		農 1	1	18						
(*二セコ)		(農1)	(1)	(0)		(農▲1)				
*新設校					総+2				二セコ高校校舎を使用	
10校	19 →18	10	28	213	普+1	総+2				

注 () は定時制課程で計欄に含まない。(二セコ)

胆振西学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	1,330	1,227	1,187	1,203	1,184	1,066	1,053	1,094	▲ 236	▲ 109
対前年増減		▲ 103	▲ 40	+ 16	▲ 19	▲ 118	▲ 13	+ 41		
室蘭市中卒者数	(567)	(517)	(507)	(535)	(515)	(448)	(444)	(455)	▲ 112	▲ 80
対前年増減		▲ 50	▲ 10	+ 28	▲ 20	▲ 67	▲ 4	+ 11		
登別市中卒者数	(398)	(360)	(360)	(352)	(361)	(322)	(304)	(348)	▲ 50	▲ 4
対前年増減		▲ 38	± 0	▲ 8	+ 9	▲ 39	▲ 18	+ 44		
伊達市中卒者数	(269)	(255)	(217)	(236)	(217)	(217)	(203)	(221)	▲ 48	▲ 15
対前年増減		▲ 14	▲ 38	+ 19	▲ 19	± 0	▲ 14	+ 18		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し	摘要	
室 蘭 栄	5		5	0				○4年間で公私比率助産後2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い室蘭市を中心に、周辺市町も含めた圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要		
単 室蘭清水丘	4		4	23						
総 室蘭東翔	4		4	0						
室蘭工業		工 4	4	67	工▲1					
単 登別青嶺	3		3	0						
中 登別明日	2		2	7						
単 伊達開来	6→5		5	14					虻田の協力校 R6(2024)入選第2次募集後学級減	
地 虻 田		商 1	1	28						
*壮 警		農 1	1	24						
9校	24 →23	6	29	163	工▲1					

胆振東学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	1,690	1,720	1,672	1,631	1,628	1,603	1,527	1,481	▲ 209	▲ 150
対前年増減		+ 30	▲ 48	▲ 41	▲ 3	▲ 25	▲ 76	▲ 46		
苫小牧市中卒者数	(1,468)	(1,467)	(1,448)	(1,432)	(1,409)	(1,405)	(1,339)	(1,300)	▲ 168	▲ 132
対前年増減		▲ 1	▲ 19	▲ 16	▲ 23	▲ 4	▲ 66	▲ 39		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度(2028～2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
苫小牧東	6		6	-1				○4年間で公私比率助案後2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要	厚真の協力校	
苫小牧西	4		4	0			穂別の協力校			
単 苫小牧南	4		4	19						
苫小牧工業		工 6	6	9						
苫小牧総合経済		商 3	3	-1						
白老東	2		2	19						
地 厚 真	1		1	14						
地 穂 別	1		1	39	普▲1					
追 分	1		1	7						
中高 鷗 川	2		2	29						
10校	21	9	30	134	普▲1					

渡島学区高校配置計画

区分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~ 2031)年まで の増減	令和10~13 (2028~ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	2,928	2,721	2,669	2,656	2,498	2,471	2,337	2,312	▲ 616	▲ 344
対前年増減		▲ 207	▲ 52	▲ 13	▲ 158	▲ 27	▲ 134	▲ 25		
函館市中卒者数	(1,885)	(1,753)	(1,742)	(1,740)	(1,602)	(1,635)	(1,544)	(1,524)	▲ 361	▲ 216
対前年増減		▲ 132	▲ 11	▲ 2	▲ 138	+ 33	▲ 91	▲ 20		
北斗市中卒者数	(448)	(380)	(367)	(358)	(367)	(300)	(327)	(305)	▲ 143	▲ 53
対前年増減		▲ 68	▲ 13	▲ 9	+ 9	▲ 67	+ 27	▲ 22		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数				令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10~13年度 (2028~2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計	R 6 (2024) 欠員						
函館中部	5		5	0				○4年間で公私比率助案後5~6学級に相当する中卒者の減	南茅部の協力校	
単 函 館 西	6		6	0				○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、函館市内及び周辺市町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要	松前の協力校	
単 *市立函館	5		5	0						
函館水産	水 4	4	50		水▲1		○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要			
函館商業	商 4	4	0					○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、再編整備の検討が必要	福島商業の協力校	
函館工業	工 5	5	0					○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要	森の協力校	
地 南 茅 部	1		1	36		普▲1				
上 磯	1		1	26						
七 飯	3		3	23						
大野農業	農 3	3	67							
地 松 前	1		1	20						
*知内	2		2	40						
地 福 島 商 業	商 1	1	11							
八 雲	2	商 1	3	55					長万部の協力校	
総 森	1		1	22	地域連携校導入 (計画変更)					
地 長 万 部	1		1	28					再編整備留保	
16校	28	18	46	378		水▲1	普▲1			

檜山学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	192	207	212	206	177	186	156	145	▲ 47	▲ 61
対前年増減		+ 15	+ 5	▲ 6	▲ 29	+ 9	▲ 30	▲ 11		
江差町中卒者数	(44)	(39)	(41)	(35)	(36)	(38)	(26)	(20)	▲ 24	▲ 15
対前年増減		▲ 5	+ 2	▲ 6	+ 1	+ 2	▲ 12	▲ 6		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
単 江 差	2		2	30				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助成した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要	上ノ国の協力校	
地 上ノ国	1		1	26					再編整備留保	
総 檜山北	2		2	30						
中高 *奥尻	1		1	21						
4校	6	0	6	107						

上川南学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~ 2031)年まで の増減	令和10~13 (2028~ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	3,312	3,255	3,224	3,215	3,105	3,117	2,957	2,925	▲ 387	▲ 290
対前年増減		▲ 57	▲ 31	▲ 9	▲ 110	+ 12	▲ 160	▲ 32		
旭川市中卒者数	(2,573)	(2,515)	(2,465)	(2,474)	(2,379)	(2,404)	(2,291)	(2,274)	▲ 299	▲ 200
対前年増減		▲ 58	▲ 50	+ 9	▲ 95	+ 25	▲ 113	▲ 17		
富良野市中卒者数	(162)	(144)	(175)	(153)	(159)	(148)	(119)	(114)	▲ 48	▲ 39
対前年増減		▲ 18	+ 31	▲ 22	+ 6	▲ 11	▲ 29	▲ 5		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数				令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10~13年度 (2028~2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計	R 6 (2024) 欠員						
旭川東	6		6	1					○4年間で公私比率助案後4~5学級に相当する中卒者の減	
単 旭川西	5		5	0					○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、旭川市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要	
単 旭川北	5		5	-1						
総 旭川南	5		5	0					○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、再編整備の検討が必要	
単 旭川永嶺	5		5	0						
旭川商業		商 5	5	0					○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要	
旭川工業		工 6	6	35						
旭川農業		農 4	4	7						
鷹 栖	1		1	21						
東 川	2		2	9						
美 瑛	1		1	23						
中高 上 川	1		1	19						
単 富良野	4		4	31	普▲4					
富良野緑峰		商 1 工 1 農 1	3	76	商▲1 工▲1 農▲1					
新設校					普+3 工+1 農+1 単位制導入					富良野緑峰高校校舎を使用
上富良野	1		1	18						
*南富良野	1		1	20						
16校	37	18	55	259	普▲4 商▲1 工▲1 農▲1 普+3 工+1 農+1					

上川北学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減	
学区内中卒者数	423	420	393	396	380	350	328	346	▲ 77	▲ 50	
対前年増減		▲ 3	▲ 27	+ 3	▲ 16	▲ 30	▲ 22	+ 18			
士別市中卒者数	(119)	(127)	(109)	(119)	(81)	(104)	(88)	(92)	▲ 27	▲ 27	
対前年増減		+ 8	▲ 18	+ 10	▲ 38	+ 23	▲ 16	+ 4			
名寄市中卒者数	(198)	(181)	(173)	(185)	(190)	(163)	(170)	(169)	▲ 29	▲ 16	
対前年増減		▲ 17	▲ 8	+ 12	+ 5	▲ 27	+ 7	▲ 1			
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、定員を含む学科構成の在り方について 検討が必要		下川商業の協力校 R 6 (2024)入選第2次募 集後学級減	
士別翔雲	3→2	商 1	3	31	普+1 (計画変更)						
地 下川商業		商 1	1	6							
単 名 寄	4	工 1	5	63							美深の協力校
地 美 深	1		1	12							
総 *刺 淵	1		1	28							
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	4							
6校	10→ 9	3	12	144	普+1						

留萌学区高校配置計画

区分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~ 2031)年まで の増減	令和10~13 (2028~ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	280	263	284	267	256	240	220	185	▲ 95	▲ 82
対前年増減		▲ 17	+ 21	▲ 17	▲ 11	▲ 16	▲ 20	▲ 35		
留萌市中卒者数	(125)	(115)	(117)	(133)	(93)	(103)	(107)	(81)	▲ 44	▲ 52
対前年増減		▲ 10	+ 2	+ 16	▲ 40	+ 10	+ 4	▲ 26		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10~13年度 (2028~2031年度) までの見直し		摘要
	普通	職業	計							
単留萌	4→3	工 1 商 1	5	52	普+1 (計画変更) 工業科・商業科 単位制導入				<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で2~3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、早急に定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 	苫前商業、天塩の協力校 R 6 (2024) 入選第2次募集 後学級減
羽幌	2		2	36						
地 苫前商業		商 1	1	22						再編整備留保
地 天塩	1		1	12						
遠別農業		農 1	1	26						
5校	7→6	4	10	148	普+1					

宗谷学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	448	425	404	391	393	380	365	346	▲ 102	▲ 45
対前年増減		▲ 23	▲ 21	▲ 13	+ 2	▲ 13	▲ 15	▲ 19		
稚内市中卒者数	(230)	(215)	(224)	(212)	(216)	(212)	(209)	(176)	▲ 54	▲ 36
対前年増減		▲ 15	+ 9	▲ 12	+ 4	▲ 4	▲ 3	▲ 33		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見直し		摘要
	普通	職業	計							
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	50				<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で公私比率助案後0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助成した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 	豊富の協力校 普通科、商業科単位制	
地 豊 富	1		1	25					再編整備留保	
浜 頓 別	1		1	7						
枝 幸	2		2	36						
利 尻	1		1	24						
礼 文	1		1	22						
6校	9	2	11	164						

オホーツク中学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	1,180	1,097	1,184	1,071	1,116	1,047	930	968	▲ 212	▲ 103
対前年増減		▲ 83	+ 87	▲ 113	+ 45	▲ 69	▲ 117	+ 38		
北見市中卒者数	(918)	(834)	(909)	(819)	(849)	(822)	(736)	(780)	▲ 138	▲ 39
対前年増減		▲ 84	+ 75	▲ 90	+ 30	▲ 27	▲ 86	+ 44		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数				令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計	R 6 (2024) 欠員						
北見北斗	6		6	14				○4年間で公私比率勘案後2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内及び周辺町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 なお、集中取組期間中において、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続で10人未満となった場合は、再編整備を進める	常呂の協力校	
単 北見柏陽	5		5	0					佐呂間の協力校	
単 北見緑陵	3		3	0						
北見工業		工 3	3	59						
北見商業		商 3	3	10		商▲1				
置 戸		福 1	1	31					再編整備留保	
地 佐 呂 間	1		1	15						
地 常 呂	1		1	30					再編整備留保	
訓 子 府	1		1	3						
地 津 別	1		1	16						
美 幌	2	農 1	3	47					津別の協力校	
11校	20	8	28	225		商▲1				

オホーツク東学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	498	482	472	479	437	434	386	390	▲ 108	▲ 89
対前年増減		▲ 16	▲ 10	+ 7	▲ 42	▲ 3	▲ 48	+ 4		
網走市中卒者数	(256)	(262)	(259)	(254)	(232)	(229)	(176)	(211)	▲ 45	▲ 43
対前年増減		+ 6	▲ 3	▲ 5	▲ 22	▲ 3	▲ 53	+ 35		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計	R 6 (2024) 欠員						
単 網走南ヶ丘	4		4	1					○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要	清里の協力校
網走桂陽	2	商 2	4	51						
総 斜 里	1		1	9						
地 清 里	1		1	17						
総 *大 空	1		1	-1						
5校	9	2	11	77						

オホーツク西学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	394	380	408	406	360	366	354	314	▲ 80	▲ 92
対前年増減		▲ 14	+ 28	▲ 2	▲ 46	+ 6	▲ 12	▲ 40		
紋別市中卒者数	(130)	(113)	(136)	(144)	(109)	(129)	(121)	(96)	▲ 34	▲ 48
対前年増減		▲ 17	+ 23	+ 8	▲ 35	+ 20	▲ 8	▲ 25		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	35					○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、早急に定員を含む学科構成の在り方につ いて検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況 から再編が困難であり、かつ地元からの進 学率が高い高校については、地域連携校に 位置付け、遠隔授業の配信による教育課程 の充実や、地域と連携した高校の魅力化等 により、可能な限り存続を図ることが必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在 籍者数が20人未満となった場合は、所在 市町村をはじめとした地域と連携して、高 校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組 む集中取組期間を設けて再編整備の留保の 検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 助成した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校等については、 取組内容やその効果などに大きな変動があ る場合、必要に応じて集中取組期間の見直 しを検討することとしており、一層魅力あ る高校づくりを推進し入学者を確保するこ とが必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1 学年の在籍者数が3年連続で10人未満と なり、その後も生徒数の増が見込まれない 場合は、定時制課程の配置状況を考慮しな がら、再編整備の検討が必要（遠軽）	興部、雄武の協力校
紋 別	3	商 1 工 1	5	80						再編整備留保
地 興 部	1		1	24						
地 雄 武	1		1	21						
中 湧 別	2→1		1	9	普+1 (計画変更)					R 6 (2024)入選第2次募 集後学級減
5校	12→ 11	2	13	169	普+1					

十勝学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減	
学区内中卒者数	2,824	2,751	2,709	2,745	2,614	2,526	2,468	2,368	▲ 456	▲ 377	
対前年増減		▲ 73	▲ 42	+ 36	▲ 131	▲ 88	▲ 58	▲ 100			
帯広市中卒者数	(1,329)	(1,321)	(1,277)	(1,340)	(1,283)	(1,199)	(1,218)	(1,149)	▲ 180	▲ 191	
対前年増減		▲ 8	▲ 44	+ 63	▲ 57	▲ 84	+ 19	▲ 69			
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度(2028～2031年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計					○4年間で公私比率助案後7～8学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、帯広市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		本別の協力校	
帯広柏葉	6		6	-1							
単 帯広三条	6		6	0							
帯広緑陽	4		4	-1							
帯広工業		工 4	4	24							
帯広農業		農 5	5	23							
*帯広南商業		商 5	5	0							
単 音 更	3		3	13							
芽 室	4		4	0							
幕別清陵	3		3	30							
上 士 幌	2		2	24							
*士 幌		農 2	2	29							
総 清 水	3→2		2	2	総+1 (計画変更)						R6(2024)入選第2次募集後学級減
中高 鹿 追	2		2	5							
更別農業		農 2	2	34							
普新 大 樹	1		1	15							
中高 広 尾	1		1	14	普+1 (計画変更)						
総 池 田	2→1		1	19							R6(2024)入選第2次募集後学級減
地 本 別	1		1	8							
足 寄	2		2	16							
19校	40→38	18	56	254	総+1 普+1						

釧路学区高校配置計画

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～ 2031)年まで の増減	令和10～13 (2028～ 2031)年まで の増減
学区内中卒者数	1,653	1,590	1,612	1,525	1,407	1,397	1,371	1,311	▲ 342	▲ 214
対前年増減		▲ 63	+ 22	▲ 87	▲ 118	▲ 10	▲ 26	▲ 60		
釧路市中卒者数	(1,209)	(1,180)	(1,205)	(1,150)	(1,048)	(1,031)	(1,006)	(967)	▲ 242	▲ 183
対前年増減		▲ 29	+ 25	▲ 55	▲ 102	▲ 17	▲ 25	▲ 39		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
普新 釧路湖陵	5		5	0				○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減		阿寒の協力校
単 釧路江南	5		5	3		普▲1		○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、釧路市内及び周辺町村における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要		弟子屈の協力校
釧路商業		商 3	3	0				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
釧路工業		工 5	5	36				○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要		
総 釧路明輝	4		4	0						
単 * 釧路北陽	5		5	0						
釧路東	2		2	1						
地 阿 寒	1		1	23						
白 糠	1		1	17						
総 標 茶	2		2	27						
地 弟子屈	1		1	16						
厚岸翔洋	1	水 1	2	57						
* 霧 多 布	2		2	47						
13校	29	9	38	227		普▲1				

根室学区高校配置計画

区 分		R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～2031) 年までの増減	令和10～13 (2028～2031) 年までの増減
学区内中卒者数		618	582	532	594	541	525	461	494	▲ 124	▲ 100
対前年増減			▲ 36	▲ 50	+ 62	▲ 53	▲ 16	▲ 64	+ 33		
根室市中卒者数		(181)	(155)	(140)	(150)	(134)	(153)	(131)	(139)	▲ 42	▲ 11
対前年増減			▲ 26	▲ 15	+ 10	▲ 16	+ 19	▲ 22	+ 8		
学校名	令和6年度 (2024年度)の状況 学科及び募集学級数			R 6 (2024) 欠員	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10～13年度 (2028～2031年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 根 室	3	商 2	5	54				○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要		R6(2024)入選第2次募集後学級減 標津、羅臼の協力校 R6(2024)入選第2次募集後学級減	
別 海	3→2	農 1	3	45	普+1 (計画変更)						
中 標 津	4→3	商 1	4	14	普+1 (計画変更)						
地 標 津	1		1	24							
*中標津農業		農 2	2	45							
中 高 地	1		1	16							
6校	12→10	6	16	198	普+2						